

学 界 情 報

国際会議レポート

第1回産業用リニアドライブ国際シンポジウム LDIA'95-Nagasaki

The First International Symposium on Linear Drives for Industry Applications

リニアドライブ関連の国際会議としては、過去11回、うち2回は日本で開催されている磁気浮上鉄道国際会議(Maglev)が有名であるが、近年のリニアドライブ技術の産業分野への発展を受けて、本シンポジウムが電気学会主催で企画され、去る5月31日から6月2日まで、長崎の沖合に位置する伊王島の施設で開催された。

日本のリニアドライブ関係者はもちろんのこと、招待講演を行ったドイツ・Braunschweig工科大学のWeh教授を始め、各国の著名なリニアドライブ研究者が参加した。参加者数と発表数を表1に示す。参加者は圧倒的に日本が多かったが、海外からも計47名の参加を得た。中でも今回は多数の韓国からの参加者があったことが注目される。また、今年度東京大学に着任されているカナダ・Queen's大学のEastham教授をはじめ、客員で日本に滞在されている海外の研究者が数名参加されたことも、最近の学界の傾向として興味深い。

研究発表は、Weh教授と東京大学の正田教授のKeynote Speechesに始まり、信州大学の山田一教授と韓国・漢陽大学のIm教授によるSurvey Lecturesの後に一般セッションに移った。発表分野はTransportation, Magnetic Levitation, Factory Automation, Motor Control, Numerical Analysis, Actuators及びRelated Topicsの7分野に分けられ、それぞれOralとPosterの発表が行われた。超精密位置決め、リニアドライブの自由度を生かした新機構の提案などが注目を集めていた。同時に、特化した研究対象に閉じこもりがちな応用研究であるが、特にPosterの発表会場で、写真1のように各企業の研究者や学生たちが、楽しげかつまじめに、互いの研究の情報交換を行っている姿が印象的であった。

表1 LDIA'95 国別参加者数及び発表数

	参加者数			発表数		
	一般	学生	計	Oral	Pos.	計
Japan	102	33	135	29	49	78
Korea	15	9	24	3	5	8
Germany	5	1	6	2	2	4
Italy	4	0	4	1	4	5
U.K.	3	0	3	2	1	3
U.S.A.	3	0	3	0	0	0
P.R.China	2	0	2	1	1	2
South Africa	1	1	2	1	2	3
Canada	1	0	1	1	1	2
Poland	1	0	1	2	2	4
Ukraine	1	0	1	1	0	1
Foreign	36	11	47	14	18	32
Total	138	44	182	43	67	110

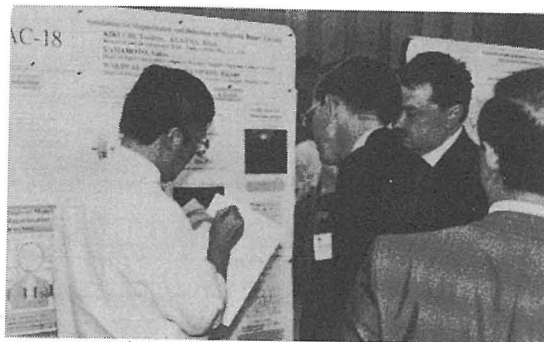


写真1 熱心に討論を行う参加者



写真2 BanquetにおけるWeh教授の乾杯スピーチ

また、ビデオを用いた発表や、近年安価に作成できるようになった、色をふんだんに使ったポスターによる発表も多く、複雑な研究内容をわかりやすく説明し、かつ目立つための工夫と努力が感じられた。

6月1日の晩にはBanquetが行われた。伊王島町長のあいさつに続き、写真2に示すWeh教授の"Keep the Gap!"の乾杯スピーチで幕を開けたBanquetは、現地の総指揮を取っていただいた長崎大学の山田英二教授の特別のはからいで、長崎にちなんでオペラ「蝶々夫人」の一節が披露されるなど、趣向にも富んだ楽しい一幕であった。今回は会場が島にあるという特殊な条件のもとで開催されたシンポジウムであったが、長崎市内から高速船で20分という交通の便を生かして、市内に宿を取って毎日会場に船で通った方、宿は島の施設に取ったけれども夜な夜な市内に繰り出された方、と様々な参加形態が存在したようである。事務局である筆者は残念ながらずっと島に缶詰で、明けた土曜日は激しい雨であったことが今でも心残りである。

なお、会議の最後には、Closing Addressとして各セッションのまとめが行われ、リニアドライブ技術の今後の方向性が示されると同時に、次回は1997年秋に東京近辺で開催される予定であることが発表された。

鳥居 肅 (武蔵工業大学)
(平成7年6月28日受付)